

民話から探る「山の世界」—下呂市萩原町の事例から—

岐阜県立益田清風高等学校

地域研究

（細江侑以、蒲隆成、忍由希奈、中田恋、二村聖葉、湯山千春、奥野節音、鎌倉菜摘、日下部乃愛、小山未紗衣、立道結佳、長塚竜我、松森遥香）

応募の動機

私たちは、「地域研究」の授業で、身近な地域の歴史や文化を学んでいます。本年度は、普段からよく目にしていて学校周辺の山々に関わる民話に興味を抱き、調査研究を進めました。そして、現地調査や地域の方々との交流の中で山や地域の魅力を学ぶことができました。この作品を通して、山の世界をもっと知ってほしいと思い、応募しました。

研究レポート内容紹介・今後の課題

私たちの高校がある下呂市はぐるりとどこを見ても山です（下呂市は約92%が森林）。授業で山のイメージを話し合っても良い意見は出てこず、「山には何もない」と思っているメンバーがほとんどでした。そんな中、地域研究の授業で、学校がある下呂市萩原町には、山に関わる興味深い民話が伝わっていることを知り、興味を持ちました。そして、今回は、仏ヶ尾山と御前山という二つの山に関わる民話を中心に現地調査を行い、「山の世界」について考えたことをまとめました。

A：仏ヶ尾山に関する民話

①「ほとけ山の由来」

- ・現地調査の結果、「ほとけ山の由来」の中に出てくる「阿弥陀如来像」が現在も民話の主人公である彦七の子孫にあたる家に存在することが分かりました。
- ・民話のもとになった資料（巻き物）も見せてもらうことができ、この民話が文政7年（1824）に起きた出来事であることも分かりました。

②「穴岩の雨乞い」

- ・夏休みに仏ヶ尾山に登り、現地調査を行い、山姥がすむとされる穴岩を実際に確認することができました。また、登山をしながら、山の世界を感じることができました。
- ・山の中にいくつかある巨岩のうち、穴岩からのみ、萩原の街並みが一望できることが分かり、人びとに信仰されるきっかけとなったのではないかと考えました。

B：御前山に関する民話

①「天が岩の天狗」

- ・天狗がすむとされる天が岩が、天保15年（1844）に作られた「益田郡上呂村御林山巨細絵図面」に描かれていることが分かりました。
- ・天狗が酒を買いに来たのは、萩原町にある天領酒造ではないかと考え、取材を行い、民話に出てくる四斗樽などを実際に見せてもらいました。

②「山之坊の蚕薬師」

- ・蚕薬師がある禅昌寺に取材を行い、山之坊に以前は修行者がいたが、今は誰も住んでおらず、建物も残っていないことが分かりました。
- ・下呂市ふるさと記念館で、江戸時代の古地図「中呂村絵図」の解説をしていただき、山之坊が古地図に描かれていることを知りました。

研究全体を通して、身近な山には、「異界」としての山（山姥や天狗がすむところ）、「信仰の場」としての山（雨乞いや修験道が行われるところ）、「生活の場」としての山（狩猟や林業などを行うところ）という姿があることが分かりました。また、巨石と民話深い関係にあることも分かりました。

「山なんて何もない」と思っていた私たちでしたが、身近にある萩原の山々には、私たちの知らない魅力的な「山の世界」が広がっていました。

今後の課題としては、今回研究したことを地域の方々にいかに発信していくかということです。地域研究のメンバーで話し合っていていきたいです。



山々に囲まれた下呂市萩原町



現地調査1：阿弥陀如来像のあるお宅訪問



現地調査2：雨乞いが行われていた穴岩